

大学生ワークショップ結果の概要

日時：令和2年12月24日（木）13：30～15：30
 場所：びわこ学院大学
 出席者：びわこ学院大学 学生14名
 ※学生は1テーブル3～4名とし、4テーブルに分かれて実施
 手法：ワークショップ ワールドカフェ形式
 テーマ：テーブルごとに設定
 ①若者が住みたくなるまち ②若者が来たくなるまち
 ③若者が働きたくなるまち ④若者が子育てしたくなるまち

■当日の主な意見

若者が住みたくなるまち

- ・現在の東近江市は、買物する場所が少ない、市内の交通の便が悪い、働く場所が少ないとの意見が挙げられた。
- ・若者が住みたくなるまちに向けて、公園をたくさん整備する、農業に取り組む若者に対する支援を行う等のほか、夜景・星空等のスポットづくり等、今ある資産をいかした取組の推進等の提案があった。
- ・若者が住みたくなるまちのキーワードは『住環境が整っている、買物場所や名所がある、交通利便性が高い、働く場がある、子育て・外国人支援が充実している』

若者が来たくなるまち

- ・現在の東近江市は、永源寺での川遊びや沢登り、星空観測等ができる自然が豊かである、スマート IC の整備により車で来やすい環境ができつつある、映画のロケ地や昔の街並みがある等の魅力がある一方で、若者が遊びに来る地域という印象がないとの意見も出された。
- ・若者が来たくなるまちに向けて、大人向けのアウトドア施設やキャンプ場などの整備、車で移動する人に訴求するようなコンテンツの整備等の提案があった。
- ・若者が来たくなるまちのキーワードは『豊かな自然を堪能できる、交通利便性が高い、飲食機能が充実、独自性がある』

若者が働きたくなるまち

- ・現在の東近江市は、治安が良い、高速道路・車のアクセスは充実等の魅力がある一方で、働く場の選択肢が少ない、交通利便性が低い、進路先が身近になく市外に出ざるを得ない等の意見も出された。
- ・若者が働きたくなるまちに向けて、地元採用を行う、家賃補助や空き家活用等によりU・Jターンの支援を行う、交通系 IC カードの連携等の提案があった。
- ・若者が来たくなるまちのキーワードは『魅力的な職場環境がある、自宅から通いやすい・近い、施設・生活環境が充実、まちに+αの魅力がある』

若者が子育てしたくなるまち

- ・具体的には、大きな公園や近くにショッピングモール等の家族で過ごせる場所がある、子育てに関する相談ができる、駅までのバスが充実している等の意見があった。
- ・若者が子育てしたくなるまちに向けて、子育て世代が必要とする情報へのアクセス性向上、公園施設への店舗設置による魅力度向上、近江鉄道をいかした子育てイベント等の提案があった。
- ・若者が子育てしたくなるまちのキーワードは『施設が充実している、支援が充実している、安全・安心して暮らせる、交通手段が充実している』

■当日の様子



■事後アンケートの主な意見

- 東近江市には4年間住んでいるが、どうしたら住みやすい町になるのか、は考えたことがなかった。しかし、「これがあつたらいいのに」などは思うことがあった。なかなか実現は大変だが、活性化してほしいと思った。
- 自分の住んでいる町に対して考える良い機会となった。東近江市に住んでいて思ったことは、ワークショップの中で議論したが、これから新たに東近江市に住むことになる学生も同じことを考えると思うので、今後のためにも議論をすることができてよかった。とても優しい人が多いこの町にもっと人が集まればいいなと思った。
- 他に無い良さが沢山あるので、多くの人に知ってもらって、良さを失わないようにしてほしい。
- 共通の意見が多かったのは、交通の便の問題があると思う。それを充実させることが大切だと思う。